



Newsletter

科学技術分野の未来を拓く—高専における男女共同参画—

第2号
2013.12

女性教員比率向上のための新たな取組が始まりました！

女性教職員を増やそう



「男女共同参画行動計画」において、新規採用教員に占める女性の比率を当面20%以上とすることを数値目標に設定し、女性比率向上のためのポジティブ・アクションを進めていますが、さらに一層の促進を図るため「公募情報周知の強化」、「高専教員募集合同説明会」、「インターンシップ受入事業」など新たな取組が始まりました。

今年9月には、本部と複数高専が連携しながら初めての高専教員募集説明会を開催しました。また、教員職インターンシップの受入が各高専で始まるなど、全国展開につながるモデルづくりが進んでいます。新たな取組により、女性教員の応募が増えることが期待されます。

初めての国立高専教員募集合同説明会を開催しました！

機構本部では「高専教員募集合同説明会」を初めて開催しました。説明会では、高専の概要紹介のほか、「女性教員の一日」と題して女性教員による実際の教員業務の説明が行われ、周知期間が短かったにもかかわらず博士課程学生やPDなど約20名の多様な参加がありました。また、高専11校による個別相談コーナーも設けられ、各高専の相談コーナーをいくつも回って熱心に質問する参加者も多くみられ、高専教員職への高い関心が感じられる説明会となりました。

日時：9月17日（火）13:30～16:30
場所：学術総合センター 中会議場（竹橋・東京）
内容：（高専紹介）柴田校長（一関）
(教員業務紹介) *上田教授（奈良）、
青山教授（富山）、白木原准教授（鈴鹿）

高専の相談コーナー：八戸、茨城、群馬、木更津、富山、奈良、和歌山、広島商船、高知、熊本、鹿児島



富山高専で女子大学院生のためのオープンセミナーを開催

★女子大学院生のためのオープンセミナー アカデミックキャリアー高専教員への道－

富山高専では、これから就職を控える女子大学院生を対象に、高専での教育活動、研究活動の一端を紹介し、高専の魅力をアピールし、将来の就職先の一つとして考えてもらうために、女子大学院生のためのオープンセミナーを開催しました。

セミナーでは、講演や女性教員による事例発表の他、女子学生によるポスターセッションも行われました。県内外から参加した7名の女子大学院生を含む高専学生及び教職員約40名が参加し、教員・学生が一体となった終始和やかな雰囲気の中で高専の魅力をアピールする機会となりました。

日時：9月5日（木）

場所：富山県民共生センター サンフォルテ（富山市）
講演：長岡技術科学大学高専連携室長 高橋勉教授
事例発表：寺崎准教授（富山）、尾山准教授（富山）



各大学で高専教員職ガイダンスを開催

★東京女子大学ガイダンス

日時：8月7日（水）10:30～12:00
説明：市川准教授（東京）



ガイダンスは後期博士課程の学生とPDを対象に、少人数の対面で行いました。
就職を控える博士課程の学生は、長時間にわたり熱心に質問し、9月の合同説明会にも参加する等、高専教員職への関心の高さがうかがえました。

★電気通信大学ガイダンス

日時：11月13日（水）16:15～17:45
説明：一戸准教授（東京）、喜多講師（東京）

ガイダンスは電通大の授業内で開催し、学部生、院生、社会人学生等約50名が参加しました。質疑では採用時の具体的な質問も出て高専教員職が学生の進路選択肢に繋がるガイダンスとなりました。



★東京学芸大学ガイダンス

日時：10月30日（水）14:30～16:00
説明：*上田教授（奈良）、岡崎教授（仙台）

学芸大の男女共同参画支援室と共に高専教員職を対象とするガイダンスを開催しました。男子学生の参加もあり、理系・文系の様々な分野から幅広く学生が参加しました。メモを取りながら熱心に聞き入る学生が多く、講演終了後は講師を囲んで活発な質疑応答が行われました。



*は、本部「男女共同参画推進室」併任

★山口大学ガイダンス

日時：11月15日（金）16:30～18:00
高専紹介：福政校長（宇部）
説明：三谷教授（宇部）、橘講師（大島商船）

宇都高専では、山口大学の「学内業界・企業研究会」の一環で、これから就職を控えている大学院生、学部生を対象に、ガイダンスを開催しました。説明会は吉田キャンパスで行い、映像を遠隔講義システムにより常盤キャンパスに生中継しました。学生は熱心に説明に耳を傾け、質疑応答では常盤キャンパスの参加者からも質問があるなど予定時間を超える有意義な説明会となりました。



高専教員職インターンシップを受入開始！

今年は、奈良高専、富山高専に続き、久留米高専が受入を開始しました。今後は、さらに15校以上の高専が受入を予定しています。

**奈良
高専**

期 間：9月～10月（3～5日間）
参加者：大学院在学中の女性、
ポストドクター及び社会人女性
内 容：授業・実験の見学、自身の研究紹介、
ミニ講義、寮当直見学、クラブ見学等

参加者の感想

「期間の後半では、先生だったらどう言うべきかを考えるように変わっていました。高専では工学だけを教えているのではなくて学生を育てる要素が強いことにも気付き、さらに先生方のお話しを聞くことによって高専の教員はとても魅力的な職業だと知ることができました。」

「今回のインターンシップを終えて、高専での教育についても興味を持つことが出来ました。また、同時に研究もできる環境は改めて魅力的であると感じました。」

「育児のブランクを経て再出発したいと考えていた私にとって、今回のインターンシップはこれからの道を探るよいきっかけとなりました。ご指導いただいた先生のご意見等は勉強になるものばかりで、女性の先生方のご経験はとても参考になりました。模擬かりで、女性の先生方の授業は今後に生かしたいと思います。全体を通して、大変有意義な時間を過ごすことができました。」



9月から10月にかけて3日間～5日間の日程で、研究職を希望する大学院在学中の女性、ポストドクターの女性および社会人の女性4名が高専教員職を体験しました。

インターンシップ生は、それぞれ希望した電子制御工学科、電気工学科、一般教科にて、授業・実験の見学やミニ講義等の実習を行いました。また、体験学科の教員との懇談や寮見学、クラブ見学を通じて、高専教員職の理解を深めました。

このインターンシップは、高専教員職についての情報発信や、研究職希望の女性の進路としての高専教員職へ興味を持っていただけるよう男女共同参画推進モデル校事業として本年度より実施しているものです。

受け入れを担当した教員からは、「インターンシップと採用が連動していくべきにインターンシップの希望が増えるのではないかと思う。高専の教員に採用されてから、こんなはずではなかったと後悔し、退職されるようなことを避けるためにも、インターンシップで経験を積んだ者が採用される方が望ましいと思う。」、「女性の教員を増やしていくたいし、継続して勤めてもらうにはインターンシップで経験を積んだ者が採用されるのが好ましいと思う。」のように、インターンシップと採用活動の連動を望む声が強く聞かれました。また、初めての試みであることから様々な改善点もあげられました。内容について総括を行い、実施方法や準備時間等改善して年度も継続して実施していく予定です。



**富山
高専**

期 間：1月を超えない範囲内
参加者：大学院生
内 容：授業・実験・実習の見学、指導補助、研究指導補助、課外活動の指導補助、学校行事への参加、キャリア教育への関わり、ゼミへの参加 等



9月30日（月）～10月11日（金）に射水キャンパスにおいて、富山高専インターンシップとして女子大学院生1名を受入れました。研修期間中は授業見学や補助の他、スピーチコンテストや本郷キャンパスとの合同球技大会などの学校行事の指導、運営に携わることにより、さまざまな面からの高専教員職への理解を深める機会となりました。11月には本郷キャンパスにおいても女子大学院生1名の受入れを行いました。

参加者の感想

「2週間のインターンシップを終え、高等専門学校の教員の仕事について、講義、学校行事への関わりから理解を深めることができました。インターンシップ期間中、特に印象深かったのが高専の教員は、学級担任、学校行事、クラブ活動、寮当直など、講義以外にも学生と関わる時間が多いうことででした。

また、結婚、出産などのライフイベントを経験しておられる先生方がお話を聞き、より具体的なキャリアプランを思い描くことができました。将来のキャリアパスとして研究職を志す場合、女性の方は、将来のキャリアパスとして研究職を志す場合、女性の方は、将来的に働き続けられるかということは、女性にとって仕事を選ぶ上で、一つの大きなポイントであり、高専では、これらのライフイベントを経験し、復帰後も活躍することのできる場所が整っていることが分かりました。

高等専門学校で教える魅力とは、研究と教育の両者が可能であり、5年間（専攻科を含めると7年間）の一貫した課程の中で学生が成長していく姿を見ることができる点にあると感じました。」

富山高等専門学校 物質化学工学科 准教授
尾山由紀子

2002年3月 東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻 博士課程修了
博士（工学）取得（東京工業大学）

2002年4月 東京工業大学大学院理工学研究科 助手
2003年7月 東京大学大学院工学系研究科 助手
2007年4月 東京大学大学院工学系研究科 助教
2010年4月 現職

2007年 長男出産、半年の育児休業を取得し復帰。2010年 夫を東京に残し、
息子を伴い実家のある富山に赴任。



▲筆者本人
昨年国際会議で訪れたグルノーブルの郊外にて

●仕事の内容、やりがいは？

今年度は、学生主事補をしています。11/2、3に行われた高専祭（志峰祭）では学生企画をサポートし、学生とともに多くの新しい試みにチャレンジし、無事終えることができました。一昨年、昨年は4、5年の担任を経験しました。私より高専生活の長い学生達に協力してもらい、進路指導など初めての業務を学生と楽しく乗り越えられたと思います。また富山高専「女性スマイル・アップ推進委員会」のメンバーとして、男女共同参画の観点から魅力ある教育研究のための環境や仕組みづくりに参加しております。

研究は高温で利用される酸化物材料を室温付近の温度で合成したり、特異な微細構造を持つように合成し、その機能評価を行ったりしています。主に酸化物中を水素イオンが伝導できる酸化物を対象としています。

日々基本的なことを繰り返しながら溜まってきたデータを見直したら「そういうことだったのか」と気づくような研究の仕方が性に合っているようで、マイペースで研究できる環境にするべく、赴任以来、周囲から足りないものを譲って頂き、技術的なサポートも頂きながら奮闘中です。また、研究に限らず、“それなら○○先生が知っているはず”という有力情報は廊下での立ち話から得られることがよくあります。このように何とか前進していく毎日やりがいを感じています。

●仕事と生活とのバランスは？

生活と仕事をそれぞれ無理しないでやっていけるよいバランスを保っているように思います。その大部分は実家の両親のサポートを得られているという環境だからと断言できます。朝は早めに出勤し、夕方はできるだけ早く帰り、息子との時間をとれるようにしています。保育園で平日に行われる行事には年休を時間単位でも取得するなどフル活用して極力参加しています。

今年度、担当学科の人員の関係で通常より多い卒業研究生を抱え、授業の担当の変更等もありました。高専での研究環境も整ってきたところで、研究にしっかり取組みたいと思い、機構から案内のあった「平成25年度女性研究者研究活動支援（研究支援員配置）事業」に申請し、研究支援員を配置していただきました。本校OGである支援員には日々、一緒になって試行錯誤をもらっています。私自身は、彼女に作業指示を出すために、先のことを意識するようになりました。また、自分の勤務時間内に並行して多様な作業をきちんと進められるようになり、本当に助かっています。

●休みの日の過ごし方、ストレス発散方法は？

部活動や寮日直がない場合は、週末に夫のいる自宅に帰ります。夫も土日にある保育園の行事には都合をつけて富山に来ます。直接会えるのが月1～2回なので、平日は夜に電話で息子と3人で話し、コミュニケーションをとっています。

最近のストレスの発散は本のまとめ買いをすることです。時々、無性に本や雑誌を読みたくなり、ジャンルを問わず、直感で気になった本を選びます。一人、本屋で過ごす時間が楽しいのかもしれません。ただし、前職までは電車通勤中に読むことができましたが、現在は車通勤のためほとんど読む暇がありません。



◀息子と夫
休日公園で自転車運転のコツを指導中

●後輩へのメッセージ

子育てと自身のキャリアを考えた時に、私は夫と共に働き乗り越えるだけの覚悟が足りなかったのかもしれません、実家の協力を得るという選択をすることで、新たな一步を踏み出し自分なりのやり方を手に入れつつあるように感じています。とても恵まれた環境で仕事を続けられていることに感謝しています。周囲の教職員の皆さんには協力的です。広く周りの人に自分の状況を伝えていけば、案外近くに経験者がいて、解決の糸口を見せてもらえたりします。周囲の協力が得られる環境を自ら整えていくことが大切だと思います。



● 実施報告

高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ

「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」が平成25年8月23日（金）に、全国高専教育フォーラム（豊橋技科大）において開催されました。昨年の参加者数を上回る約60名の教職員の参加があり、女性研究者の研究環境改善に向けた取組への関心の高さがうかがえました。

ワークショップでは「女性研究者交流支援システム」を活用しながら、高専女性教員のキャリア形成に関する現状や課題、支援策を協議しました。また、会場の様子は交流支援システム内にてライブ動画配信を行い、会場外の教職員からのコメント投稿がタイムリーに反映されました。

ディスカッションは、10グループに分かれ、各グループの討議内容を交流支援システム内に投稿しながら、発表を行いました。

アンケートでは9割が「有益だった」と回答があり、有意義なワークショップとなりました。また、女性教職員が抱える問題について理解を深めることができた、他高専の現状や経験談を共有出来た、様々な制度の存在を認識するきっかけとなった等、多数の意見が寄せられました。



● 実施報告

大学等における男女共同参画推進セミナー

「大学等における男女共同参画推進セミナー」が平成25年11月28日～29日に国立女性教育会館で開催され、全国の大学等から約90名の参加があり、高専から18名の教職員が参加しました。1日目はお茶の水大学長等より男女共同参画に関する講義があり、2日目は分科会が開催されました。

第3分科会では、香川高専の*内田由理子教授が「理系女子学生へのキャリア形成支援の取組について」をテーマに発表を行いました。高専での具体的な取組や女子学生を取り巻く現状、卒業後の女子学生のキャリア継続等の事例発表をもとに活発なディスカッションを行い、理解を深めることができました。

*は、本部「男女共同参画推進室」併任

● 実施報告

2013高専女子フォーラムin関西

「2013高専女子フォーラムin関西」が平成25年8月30日（金）に新大阪丸ビル別館において開催されました。企業関係者をはじめ、女子中学生・保護者等260名以上の参加者があり、全国地区毎の開催となった今年度の第一弾として、活発な情報交換が行われ、交流を深めることができました。

午前は近畿地区代表幹事校である奈良高専の桐川副校長の開会挨拶の後、女子中学生・保護者に向けて、高専女子学生がポスター発表を行いました。高専の教育・研究活動・学校生活などをテーマにした36件のポスターブレゼンテーションが行われ、中学生に興味をもってもらえるよう各自ポスターと説明方法を工夫して高専女子学生の魅力を紹介しました。また同時に、各校の担当者による「入学相談コーナー」を設け、高専教育に関する情報を提供することができました。

午後は、奈良高専谷口校長の開始挨拶の後、企業関係者に向けて高専女子学生がポスター発表を行いました。午前の部とはまた違った緊張感のある中、堂々としたプレゼンテーションを行い、質問にもしっかりと答えている高専女子学生が多数みられました。

引き続き行われた企業関係者からの19件のポスター発表では、女性技術者が職場で活躍している姿や仕事と家庭の両立を支援する仕組みについて具体的な紹介がありました。普段ではあまり機会のない、技術者や人事担当者から直接興味深い話を聞くことができ、高専女子学生・教員から活発に質問が出されていました。



※今年度の開催予定

関東信越地区：12/23（月・祝）学術総合センター（東京・竹橋）

四国地区：3/21（金・祝）アルファあなぶきホール（高松市）

Information

女性研究者支援オフィス

メンターによる相談を受けることができます！

メンタリストを確認
→相談シートを女性支援オフィスに送付

初回相談開始
→オフィスに報告書提出

メンターと直接交信

最終相談終了
→オフィスに報告書提出



女性研究者交流支援サイトは、女性研究者同士の活発な交流を促進するネット上のコミュニケーションの場です。自由な意見交換や情報取得・共有のためのツールとして、ぜひご活用ください。

★リレー日誌（コミュニティページ）

現在、19名の参加があり、リレー形式で日常の出来事や校務、教育、研究について書き込み、意見交換をしています。みなさまのご参加をお待ちしています

★メンター制度（キャリア形成ページ）

女性研究者が研究活動と生活を両立するうえで抱える問題や、キャリア形成していくうえで遭遇する問題などについて相談できます。

平成26年度 研究支援員配置制度利用者募集を開始します！



高専の女性研究者が出産、子育てや介護などと研究活動を両立できるよう、研究支援員を配置し、ワーク・ライフ・バランスを保ちながら継続して研究が行うことができるよう支援します。

「募集要項」は1月に各高専にお送りしますので、担当係にお問い合わせ下さい。

独立行政法人国立高等専門学校機構 男女共同参画推進室

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町701-2

E-mail danjo@kosen-k.go.jp

TEL 042-662-3151/FAX 042-662-3131

<http://gender.kosen-k.go.jp/>